

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201587		
法人名	有限会社ハートフル長崎		
事業所名	グループホーム団欒		
所在地	長崎県佐世保市梅田町110-12		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5-3 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の希望に沿った外出支援と、ホーム内の環境整備に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市中心部の近くに位置するグループホームであり、周囲には住宅や保育園があり生活感のある地域である。丘の上にあるため居室に日が当たり明るく、眺めも良好である。元々学生寮だった建物であり各居室には押し入れがあるため十分な収納スペースが確保されており、荷物が治まり快適な空間が確保されている。職員は利用者の普通の生活を支援しており、特に入浴は利用者の希望を取り入れ毎日希望される方にも対応しており、時間の希望についても対応している。長年の懸案事項であった通行に難儀していたが玄関前の歩道陥没は、地主や近隣住民へ舗装をお願い続けたことにより、舗装がなされ利用者の外出することが楽になっており、事業所が積極的に働きかけた成果であるといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念を全員で復唱、再確認しながら業務に就いている。	「もっと優しく、もっと温かく…」が法人全体の理念である。一人一人への話しかけを大切に、利用者の思いをくみ取るように取り組まれている。また、新人職員には年2回、理念についての研修が行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や保育園との交流を続けており、職員、利用者ともに行事に参加している。	町内会に加入しており、町内の夏祭りや、神社のおくんちへ参加している。また、近所の保育園との交流も盛んで、運動会や発表会へ招待を受けたり、敬老会を開催したときには園児に来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的な挨拶や会話の中で地域の方の質問に答えたりする程度。積極的には活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に会議を行い報告している。参加者からは意見等を寄せてもらい、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回行なわれている。家族代表・公民館会長・民生委員・市の職員・職員が参加している。現況や行事を報告し、行事の内容について質問を受けたりするが、意見はあまり出ていない。	利用者や家族の希望されている内容を的確に把握し、質の高いサービスを行なうためにも、運営推進会議で意見を多く出してもらおう取組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時にサービス状況報告は行っているが、日頃からの密な連絡は行っていない。	運営推進会議に市役所の職員も参加してもらうため、2ヶ月に1回は交流がある。スタッフの交流はあまりないが、代表が佐世保市グループホーム連絡協議会会長であるため、協議会を通して市に要望を提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	道路環境事情もあり、安全面を第一に考え、玄関は施錠している。 身体拘束について職員の理解はおおむねできている。	法人全体で身体拘束防止委員会があり、会議で、何が身体拘束にあたるか、各グループホームホームで身体拘束がないか、話し合いを行っている。言葉の拘束にも気を付けて日々のケアに取り組んでいる。防犯上の理由から玄関は施錠していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー等にて積極的に学んでもらっている。 入浴時には身体チェックを行い見過ごさないように心掛けている。		

グループホーム団欒

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が制度を活用した事がある。管理者は市の社会福祉協議会との話し合いの場を学ぶ機会としたが、職員全体では学べていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族様などの予定に合わせ、ゆとりある時間帯を選んでもらい安心と納得できるように詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、利用者、家族の要望等はホーム役職者や担当職員が伺うようにしている。	ご意見箱の設置はあるが、利用される方は少ないので、口頭で聞き取りを行なっている。申し送りノートへ記入し、職員で情報を共有するようにしている。網戸の張替えを希望されている方について張替えを行なった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回法人代表者を交えた会議、勉強会を行っている。	月末にスタッフで会議を開き、問題点や要望を出し合っている。これを月初に行なわれるホーム長会議で検討し、結果をスタッフへ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と定期的に面談を行い、職員の状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外を含めた研修に係ることを全般に支援している。関連事業所内の研修委員会は企画・調整・連絡等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会での交流、他ホームと合同の勉強会に参加し意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問調査を行ったり、ホーム見学に家族と一緒に来てもらい十分に話を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などの際には、家族の要望や困っていること等を十分に伺い、同意を頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援計画を作成する時は、要望を具体化し必要な情報を段階的に目標をかけたて、達成できるように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を通して、「生活の知恵」や季節の慣わし、料理等について学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事等に参加して頂いたり、協力を呼びかけ、交流を図りながら、御家族に必ず報告・連絡・相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会のミサや学会の会合への送迎など、宗教上の習慣や馴染みの店での食事など、広く外出を支援している。	利用者の宗教上の集まりについて送迎を行っている。また、馴染みの理髪店や飲食店へ行ったりしている。グループホームへお友達が訪問されることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士が良く話されている。日によっては口論をされることもあり職員が対応するようにしている。孤立しないように常に声かけをするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院される方には、定期的にお見舞いに行ったり、退院後も御家族と連絡をとるなど、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ利用者の要望や思いを聞き、生活を支援するようにしている。アセスメント、ケアプランの勉強会を何度も行い把握できるように努めている。	利用者からお話を聞いて意向を把握するようにしている。言葉で思いを伝えきれない方は、利用者の様子から本人が好きで喜ぶ事を探るように努められている。家族から趣味や生活歴を聞き、参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや調査表を活用し、家族面会時には生活に関する情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話したことや、生活の様子、心身状態をケース記録、業務日誌に記入している。また職員間の申し送りにより把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、介護支援専門員で話し合っって作成している。また主治医の意向も取り入れている。	利用者毎に担当者が決まっており、利用者や家族の意見を聞いている。ホーム長会議が月2回あり、月末にカンファレンスを行なっている。また、往診の際に医師が言われたことも介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かいことでも個人のケース記録に記入するように心掛けている。口頭とノートによる申し送りを毎朝確認し、日常のケアや、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業と連携をとり、系列の有料老人ホームの大浴場を使ったり、系列施設の行事等にも参加し手いる。		

グループホーム団欒

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等に民生委員や町内役員、ボランティアの舞踊団、少年少女空手グループなどの方々に参加して頂いたり、消防局へ訓練のためにホームを開放して提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外でも利用者や家族の希望があれば、入居前のかかりつけ医との関係を支援している。	希望があれば、従来からのかかりつけ医の受診を支援しており、基本的には佐世保記念病院からの往診を受けている。また、訪問看護ステーションから週一回の訪問があり、利用者の体調により受診を検討したり、容態についての相談をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、訪問介護、関連事業の看護職員等と気軽に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中は、お見舞いを兼ねて出向き、病院関係者、家族を含めて早期退院に向けて話し合い、相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の病状説明を家族と共に聞くようにしている。看取りについても利用者本人、家族等の意見を尊重し十分な説明、話し合いを持つようにしている。	入居時に看取り看護についての同意書を利用者や家族と取り交わしている。看取りに関する指針はあるが、事例はなく、職員の研修は行っていない。	看取りについての研修や話し合いを行なうことにより、職員間の意識の統一やレベルの統一を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応については、定期的に勉強会に参加し学んでいるが、職員全員が十分にできる事とは思えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は、年に2回訓練している。しかし、地域の方との協力体制を築くまでには至っていない。	消防避難訓練を、夜間想定で年2回行なわれている。消防署の立会のもとに、通報の仕方等を訓練している。しかし、地域の方の参加は無かった。また、火災時の対応のみであった。	災害時には地域の方の協力が必要になるので、理解や協力を得るような取組みを希望する。また、地震や台風等の災害に対する備えも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導の声かけの対応には、個人の誇りを大切にしながら行っている。また名前の呼称については、敬意を払うことを基本としている。	契約書等に秘密保持について記載をしている。また、グループホーム新聞への掲載や、配布について、家族から同意書を得ている。また、トイレ誘導の声かけは、周囲に配慮し小さい声で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員が希望や要望を、日頃より会話の中で聞きだすようにしている。実行にともない一緒に考えたり、共に行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一日の流れは、決めていない。「その日をどのように過ごしたいか」の希望に十分にそった支援には至っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理髪店等に本人と話し合い、行く日を決めたり、一緒に服を選んだり努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りについては、外部から業者が入っているが、季節ごとの行事食やおやつなどを一緒に作る機会を設けている。	外部からの配食サービスを利用しているが、利用者の好き嫌いに配慮し、カレーをハヤシライスに変更したりしている。タカナ漬けを利用者と毎年漬けたり、おやつと一緒に作ったりしている。職員は各自お弁当を持参し、利用者と同じ食卓を囲んで楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量摂取量をチェックし表に記入している。栄養バランスは外部の栄養士による献立が届いている。自ら水分補給できない人には定期的に水分補給を行う様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援している。毎日の義歯消毒も行っている。歯科衛生士による週2回の訪問指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をこまめに行い、布パンツの使用を奨めている。	利用開始時に利用者の排泄パターンを確認するようにしている。職員はパターンを把握し、誘導することで失敗をなくし、排泄の自立支援を行っている。利用開始時におむつ使用だった利用者が、布パンツへと変更になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時以外にも水分補給を促す声かけをしている。また便通剤が必要な方には観察と申し送りを十分に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴希望を聞き取り、希望者は入浴できるように行っているが、十分な利用者本位の入浴支援はできていない。	入浴は利用者の希望を取入れている。毎日希望される方にも対応しており、夜間の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めていない。意思表示できない人へも、その人にとって良い状態を考え、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、一包化してもらえよう薬局に協力して頂いている。個人のケース記録に説明書を綴っており、変更があった場合は申し送りを多くし、管理の仕方を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的には洗濯物たたみや料理の盛り付け・配膳など出来ることを積極的に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に教会のミサ、学会の会合など外出支援を行っている。公園への散歩、玄関先での日光浴など支援している。家族との外出も行えている。	玄関前の歩道に陥没があり、通行に難儀していた所があったが、地主や近隣住民の協力を得て舗装がなされた。そのためこれまで外出は事故の危険性があったが、快適に外出ができる環境が整っている。また、利用者が希望される外食や、花見、よさこい祭りの見物に出かけている。	



グループホーム団欒

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、少数のお金を所持してもらっている。 外出時などには自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には、自由に電話していただいている。 手紙については、希望されることが少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、玄関や館内の飾りつけを行っている。	季節に合わせた掲示物をし、季節を感じるができるようにしている。2階のリビングは2カ所あり、ゆったり過ごすことができる。事業所で飼っている犬に声をかけている利用者の姿もあり、それぞれ居心地のいい環境でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にて、気の合った方同士で過ごされるようソファやテーブルを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるタンスや御仏壇を持参されたり、好きな植物をおいてもらったりしている。	居室には馴染みの物を持ち込めるようになっており、タンスやテレビ、写真を置かれている。また、御仏壇を持参されお参りをされたり、植木鉢に毎朝水やりをされている方もいらっしゃる。押入もあり十分な収納スペースがあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂などには大きく表示し、分かりやすくしている。また居室ドアには目印をつけたりしている。		